

第 2 次平戸市総合計画 基本構想骨子案

(起草委員会資料)

平成 29 年 2 月
長崎県平戸市

プロローグ

古くから平戸では、海外貿易が盛んに行われており、中国や朝鮮と深いつながりがありました。奈良、平安時代には遣唐使船の寄港地として、多くの若者たちが夢とロマンを胸に旅立っていました。

1550年にはポルトガル船が入港し、ポルトガルとの貿易がはじまりました。これを契機に栄えた平戸は「西の京」と呼ばれるようになり、ヨーロッパの国々の船が行きかう国際貿易港となりました。

後年、平戸を訪れた俳人の種田山頭火は、島の美しさと人の温かさに感激し「平戸は日本の公園である」と句を詠みました。さらに、縄文・弥生時代からの遺跡が点在する田平や、江戸時代からの貴重な町並みが残る大島があり、日本一の鯨組を築き上げた漁師まちである生月など多彩な歴史に富んだ平戸市が形成されました。

私たちのまちは、常に新しいものを受け入れ、平戸ならではの文化を創造し続けてきました。その歴史と文化はやがて平戸の「宝」となり、「宝」は代々平戸に暮らす人の心に染み渡り、受け継がれ、今、平戸に暮らす私たちの誇りの源となっています。

平戸市民としての誇り（シビックプライド）を胸に、今こそ平戸に住むすべての人（HI TO）の力を総結集して、私たちの平戸を大いに盛り上げていきましょう。

目次

プロローグ

第1部 平戸市のまちづくり未来図

第1章 平戸市が描く未来	1
第2章 未来へ挑む平戸市	2
第3章 市民からみた未来への意見	3
第4章 未来への5つのポイント	6

第2部 平戸市のまちづくり設計図

第1章 平戸市の構図	9
第1節 平戸市の人口ビジョン	9
第2節 平戸市の財政	11
第3節 平戸市のすがた	13
第2章 平戸市のデザイン（総合計画）	16
第1節 総合計画とは	16
第2節 総合計画の構成	17
第3章 みんなでやらんばプロジェクト	19
第1節 まちづくりの目標	19
第2節 地域目標	20

第1部

平戸市のまちづくり未来図

第1章 平戸市が描く未来

第2章 未来へ挑む平戸市

第3章 市民から見た未来への意見

第4章 未来への5つのポイント

第1章 平戸市が描く未来

■ 2次計画が描く未来像

※キャッチフレーズ

～これまでにでたキーワード～

「選ばれ続ける」「本物」「感動都市平戸」「ひと(HITO)」「活かす」「元気」「宝」「磨く」
「危機感」「誇り」「自然」「美しい」「笑顔」「輝く」「緑」「響く」「文化」「豊か」
「つながり」「広がる」「自然と共に生きる」「漁業」「異国情緒ただよう」「つながる」

※市長ヒアリングより

- 2次計画の未来像に関しては、躍動感を感じられ、飛躍するようなイメージのものにしたい。
- 1次計画の将来像よりも、人を引きつけるような力のある言葉にしたい。
- よく使う言葉としては、「選ばれ続ける」「本物」「感動都市平戸」など。

※未来像の方向性

- 市の方向性としては、「ひと(HITO)」をサブタイトルに入れるなど何らかの形で2次計画に残していきたい。

※起草委員会での意見

- 「美しき豊かな郷土磨きあう 私がつくる元気な平戸」
(一人ひとりがまちづくりの主役だということを訴えたほうがいいのではないか)
- 「活かせ人・宝の島」
(今までの計画を全面的に変えるのではなく、ある程度、踏襲しながら新しい感覚を引き込んでいく形が良いのでは)
- 今までのやり方ではだめなので、危機感とか、活かす、という部分を前面に出していく必要があるのではないかと思う
- 今まで積み上げてきたものを、さらに活かしていこうという思いを出したい

※中高生アンケートの意見

- 「広がるみどり 自然いっぱい平戸島」
- 「smile 平戸 ～笑顔あふれる平戸の街～」
- 「あたたかい自然とひと(HITO)が いきる島 平戸」
- 「自然と歴史が溢れる宝島」

第2章 未来へ挑む平戸市

①みんなで手を取り合い

本市では、これまで市民にとって身近な問題を家族や隣近所、あるいは自治会などの多様なコミュニティが関わることで解決してきました。

しかし、社会が成熟し、本市に住む人々の暮らしも多様化しています。少子高齢化や都市圏への人口流出、核家族化などの問題で地域コミュニティに参加する人が減っています。こうした状況にきめ細やかに対応するには、これまでの行政主導の力だけでは十分とは言えません。市民一人ひとりが新しいまちづくりの方法を知り、参加することが必要不可欠です。

ずっと住み続けたい平戸市を創造していくために、市民と行政が手を取り合ってまちづくりを進めることが必要です。

②にぎわいをつくり

本市は時代とともに多くの異国文化を受け入れ、独自の歴史と文化を生み出し続けてきました。その歴史と文化はやがて本市の「宝」となり、訪れる人々にやすらぎと癒しを与えてきました。

今後は、西九州自動車道開通予定に伴う交流人口の拡大が予想されることから、本市の「宝」にさらなる磨きをかけ観光振興を図るとともに、経済や産業の活性化が期待されることから、積極的な企業誘致を行い、特産品の販路拡大に力を入れ、にぎわいのあるまちを創出します。

③誇りが持てるまち

本市の人口減少を抑制するためには暮らしやすいまちにし、住民が愛着と誇りを持てるまちとすることが大切です。

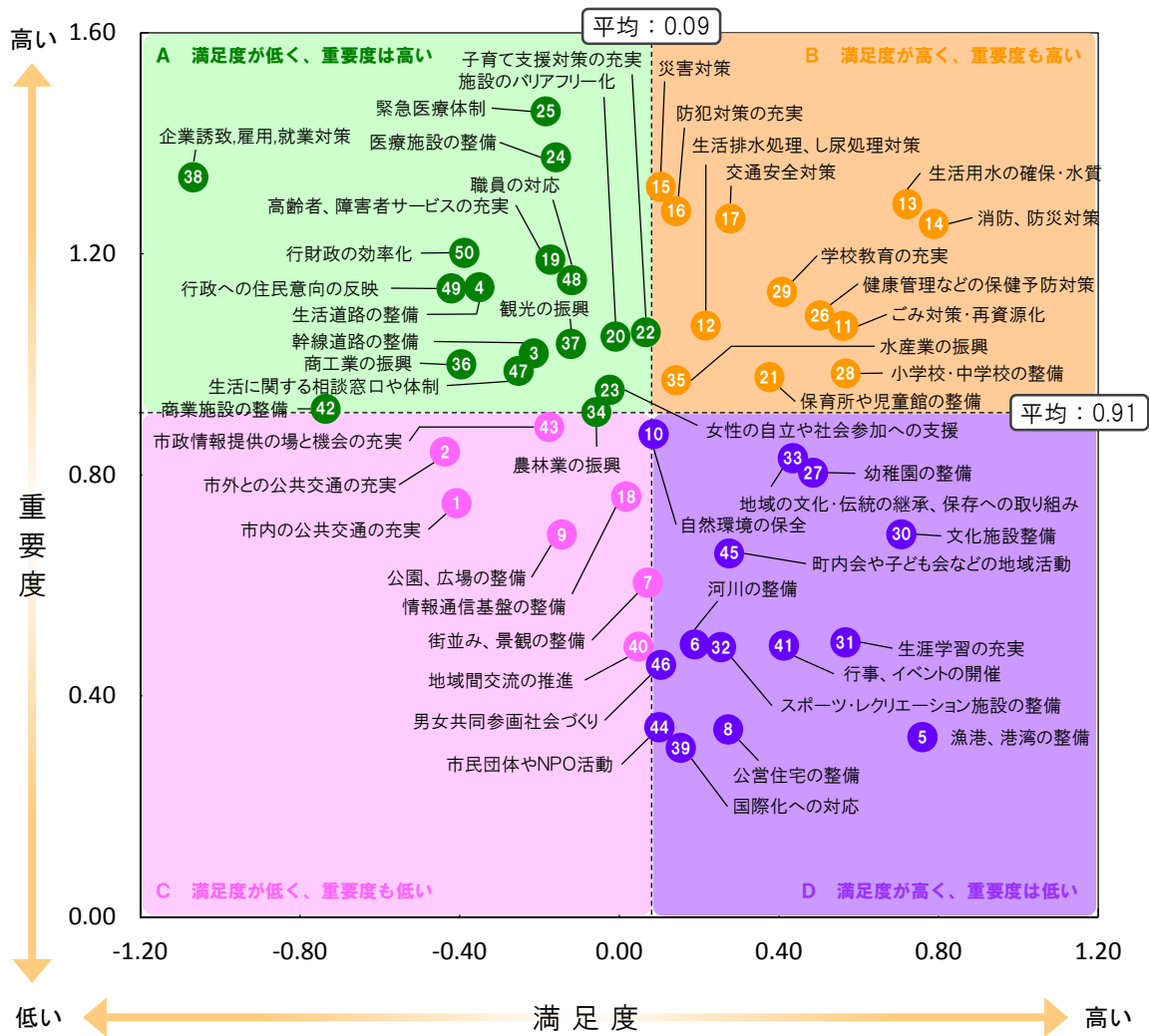
市民アンケート結果において重要視されている「緊急医療体制（夜間・日中・救急）」、「病院、診療所など医療施設の整備」などの医療分野や本市の特徴である自然環境、日々の暮らしに欠かせない生活インフラなどについて向上を図り、「いつまでも平戸市に住み続けたい」また、「一度離れてもまた戻って来たい」と思える市民が誇りを持てるまちを創造します。

第3章 市民からみた未来への意見

「第2次平戸市総合計画」を策定するにあたり、本市のまちづくりにおける市民の意向を把握するためアンケート調査を実施しました。

施策の重要度が高くなっている項目は、「緊急医療体制」「医療施設の整備」などの医療分野と「企業誘致、雇用、就業対策」の産業振興・雇用対策の項目が高くなっています。本計画の未来実現のためには、これらの取り組みを優先的に行っていく必要があります。

満足度・重要度のマトリックス



上の図は、各項目の満足度および重要度について、回答者全員の平均値の分布を示したものです。市の取り組み50項目について回答者の満足度（「満足」回答数×2点、「やや満足」×1点、「やや不満」×-1点、「不満」×-2点）と重要度（「極めて重要」回答数×2点、「重要」×1点、「あまり重要でない」×-1点、「重要でない」×-2点）を得点化し、回答者全員の平均値を項目ごとに算出しました。

	項目	満足度 順位	重要度 順位
1	市内の公共交通（バス、船、鉄道）の充実	46	36
2	市外との公共交通（バス、船、鉄道）の充実	48	32
3	幹線道路（国道や県道など）の整備	41	21
4	生活道路（身近な道路や歩道）の整備	43	12
5	漁港、港湾の整備	2	49
6	河川の整備	19	42
7	街並み、景観の整備	27	40
8	公営住宅の整備	16	48
9	公園、広場の整備	36	38
10	自然環境の保全	26	31
11	ごみの収集・処理・減量化・再資源化対策	7	16
12	生活排水処理、し尿処理の対策	18	17
13	生活用水（飲み水など）の確保・水質	3	5
14	消防、防災対策	1	7
15	地震や台風などへの災害対策	24	4
16	防犯対策の充実	21	6
17	交通安全対策	14	8
18	情報通信基盤の整備（インターネットやケーブルテレビなど）	30	35
19	高齢者、障害者のための施設整備やサービスの充実	38	10
20	公共施設のバリアフリー化	31	19
21	保育所や児童館の施設整備	13	24
22	子育て支援対策の充実	28	18
23	女性の自立や社会参加への支援	32	27
24	病院、診療所など医療施設の整備	37	2
25	緊急医療体制（夜間・日中・救急）	40	1

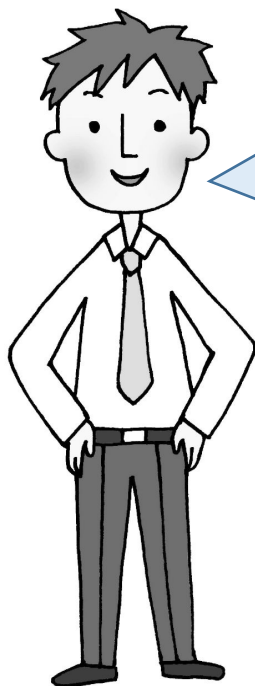
	項目	満足度 順位	重要度 順位
26	健康管理などの保健予防対策	8	15
27	幼稚園の施設・設備の整備	9	33
28	小学校・中学校の施設・設備の整備	5	25
29	学校教育の充実	12	14
30	図書館、文化ホール、公民館などの施設整備	4	37
31	生涯学習の充実（公民館活動、各種講演会の実施など）	6	41
32	スポーツ・レクリエーション施設の整備	17	43
33	地域の文化・伝統の継承、保存への取り組み	10	34
34	地域の特性を活かした農林業の振興	33	29
35	豊かな資源を活かした水産業の振興	22	26
36	商店街や商業拠点の整備・商業の振興	44	22
37	地域の資源を活かした観光の振興	34	20
38	企業誘致や雇用対策、就業環境	50	3
39	国際交流の推進など国際化への対応	20	50
40	地域間交流の推進	29	44
41	行事や各種イベントの開催	11	45
42	買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備	49	28
43	市政に関する情報提供の場と機会の充実	39	30
44	市民団体やNPOなどによる活動	25	47
45	町内会や子ども会などの地域活動	15	39
46	男女共同参画社会づくりの推進	23	46
47	生活に関する相談窓口や体制（分かりやすい組織機構）	42	23
48	市民に対する市職員の対応	35	11
49	行政への住民意向の反映	47	13
50	行政運営・財政運営の効率化	45	9

- ：満足度が低く、重要度は高い
- ：満足度が高く、重要度も高い
- ：満足度が低く、重要度も低い
- ：満足度が高く、重要度は低い

未来を担う子どもたちの意見

～未来の市長マニフェスト～

中学生アンケート



- 文化の盛んなまちにしたい。
- にぎやかなまちをつくりたい。
- 笑顔あふれる明るい町にしたい。
- 若者とお年寄りが互いに支えあう心のかようまちにしたい。
- もっと地域のつながり、人と人のつながりを大事にできるまちをつくりたい。
- 平戸の市場をもっと発展させ、長崎県や他県にPRしていきたい。
- 田舎に住みたいという都会の人に、平戸市をアピールして住んでもらい、若い人たちをどんどん増やしたい。
- お年寄りの方々が安心して暮らせるまちをつくりたい。
- 世界中の人たちが平戸を訪れてくれるようなまちにしたい。

高校生アンケート

- 平戸は、どこに行ってもきれいな景色が見られてとてもいい所です。それを市外、県外の人に知ってもらいたい。
- 自然が美しく、安心、安全なまちを目指し、明るいまちにしたい。
- それぞれの地域にある伝統文化を受け継いでいくまちをつくりたい。
- 観光事業と福祉のバランスのとれたまちにしたい。
- 教育を充実したい。
- 雇用を増やして、みんなが働ける町にする。そして、大人になって出て行く人より、残って平戸のために役にたてるような人を生み出していきたい。
- 次代の若者に合ったまちづくりを行いたい。「I LOVE HIRADO」



第4章 未来への5つのポイント

(1) 地域の「きずな」を深めよう

近年、人口減少や地方分権の進展など刻々と時代が変化していくなかで、行政だけでは多様化する市民のニーズや地域の課題に対応することが難しくなっています。その解決に向け、地域と行政が役割を分担しながら、地域の課題解決を図る協働のまちづくりの必要性が高まっています。本市の地域コミュニティは、子どもや高齢者などの見守り、助け合いなどの相互扶助、伝統文化の維持などさまざまな機能を担ってきました。しかし、人口減少とライフスタイルの多様化、価値観の変化などにより、地域内のつながりが希薄になってきています。市民アンケート調査において「コミュニティ活動（地域活動）にどの程度参加しているか」をみると、20・30歳代の若い世代の参加率が他の世代と比較して低くなっています。地域コミュニティは、人口流出の抑制、教育、産業など重要な役割を担っていることから、一人でも多くの地域住民が地域コミュニティに関心をもち、自らの問題として考え行動することが大切です。地域コミュニティの自立においては、地域で暮らす地域住民のアイデアを活かしたコミュニティビジネスなど、地域で稼げる仕組みをつくり、地域の活性化を図ることが重要となります。

(2) 人こそ「宝」

日本の総人口は、約1億2,709万人（平成27年国勢調査）と平成20年をピークに人口減少が急速に進んでいます。今後、ますます人口減少が進むことが予測され、本格的な人口減少社会を迎えることとなります。本市も例外ではなく、平成27年では31,920人（平成27年国勢調査）と確実に人口減少が進んでいます。

また、人口減少とともに高齢化が急速に進んでおり、生活機能を維持する観点からも、若い世代や働き盛り世代の流出を抑制していくことが求められます。平成27年度に策定した「平戸市人口ビジョン」「平戸市総合戦略」は、本市の特色や地域資源を活かしつつ、人口減少対策に特化した主要な施策や事業を定めています。このため、人口減少と少子高齢化への対応においては、この「総合戦略」「人口ビジョン」で掲げた施策や目標を基本とし、人口減少対策を進める必要があります。

これまで歴史や文化を継承し、今後も継承していく市民こそが本市の「宝」であることから、今後も、歴史と伝統ある郷土に誇りと愛着をもち、様々な分野で活躍できる創造性豊かな人材を育成していきます。

(3) まちの「魅力」アップ

本市は、美しく豊かな自然に囲まれており、海外交流などを示す歴史的遺跡をはじめ数多くの文化財を有しています。我が国では、平成 28 年の訪日外国人観光客が初めて 2,000 万人を超え、本市における外国人宿泊者数も増加していることから、今後も外国人観光客の増加が予測されます。市民アンケート調査結果をみると「地域の資源を活かした観光の振興」の満足度は低く、重要度は高いという結果となっています。また、「あなたが誇りに感じる、または知人などに紹介したい地域資源」では、「あご(トビウオ)」「平戸大橋」「平戸城」という回答が多く、市民の**景観資源等**への関心の高さを示しており、地域資源の保存はもちろん、情報発信、利活用等が重要となります。

(4) 「力強い」平戸市をつくる

近年、日本経済はますますグローバル化し、情報通信技術によるイノベーションの進展などにより、産業構造は大きく変化しており、TPP等の対応など、刻々と変化する時代の潮流に、的確に対応していくことが求められています。市民アンケート調査結果をみると「企業誘致や雇用対策、就業環境」は満足度は低く、重要度は高いという結果となっています。今後は、西九州自動車道開通予定による**交流人口の増加や企業誘致が望めることから、U I J ターン者等の雇用を確保するとともに、本市の基幹産業である第 1 次産業の振興をはじめ、特産品の販路拡大、積極的な企業誘致を行い産業の活性化を図ります。**

(5) まちの経営を「工夫」

国では、平成 72 年に 1 億人程度の人口を確保する中長期展望を表した長期ビジョンを示し、施策の基本的方向や具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。これを踏まえ、全国のすべての都道府県・市町村において、地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定が求められました。人口減少と地域経済縮小の克服、東京一極集中を是正するため、地方自治体自らが考え、責任を持って戦略を推進することとなっています。このように地方分権が加速することで、地域の独自性と個性が際立つ時代に突入していきます。本市も限られた財源と人材を有効に活用しながら、市民との協力と創意工夫により特色のある地域経営を進めていきます。

第2部

平戸市のまちづくり設計図

第1章 平戸市の構図

第2章 平戸市のデザイン（総合計画）

第3章 みんなでやらんばプロジェクト

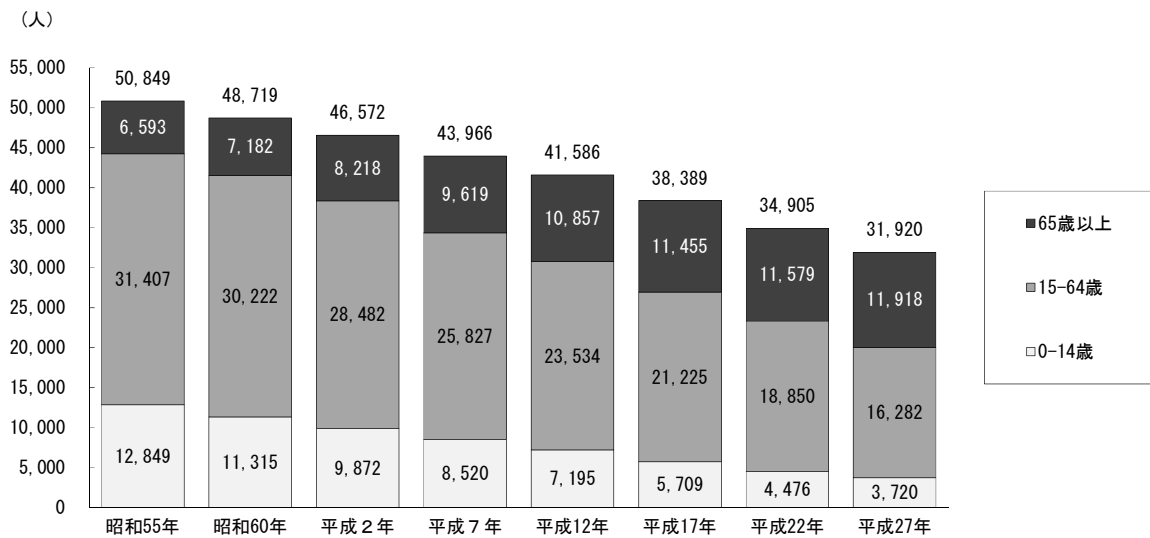
第1章 平戸市の構図

第1節 平戸市の人口ビジョン

年齢三区分別人口の推移をみると、本市の総人口は、平成27年では31,920人となっており、昭和55年以降一貫して減少しています。

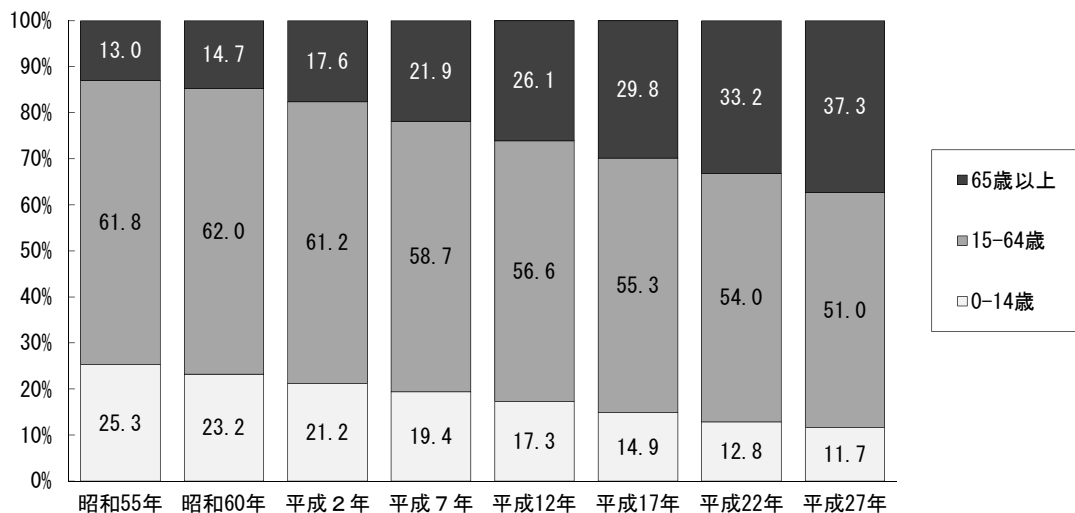
年齢三区分別人口割合の推移をみると、「0-14歳」「15-64歳」は低くなっており、「65歳以上」は高くなっていることから高齢化が進行していることがわかります。

■年齢三区分別人口の推移



資料：国勢調査

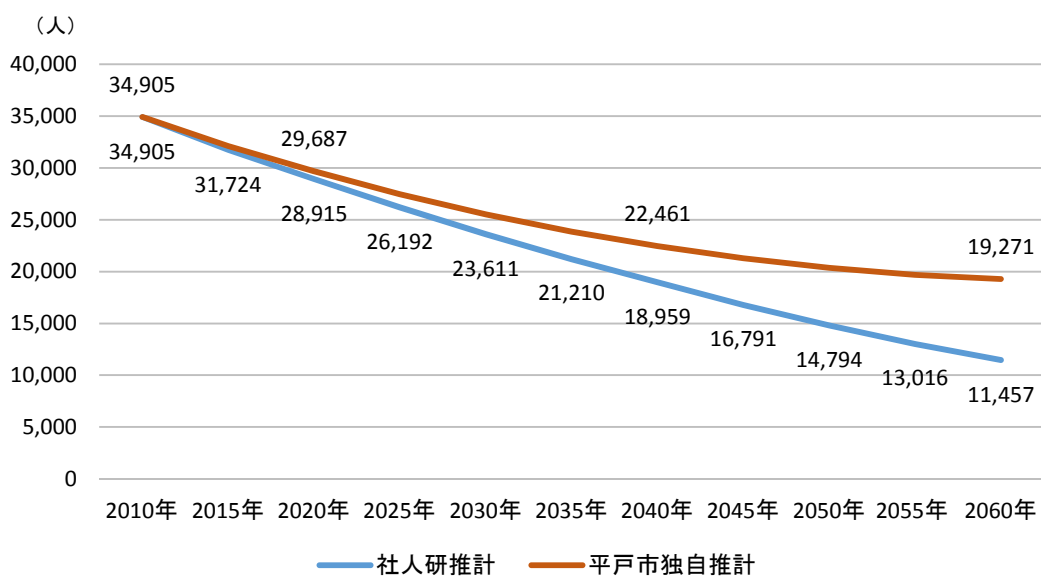
■年齢三区分別人口割合の推移



資料：国勢調査

平成 27 年度に策定した「平戸市人口ビジョン」では、平戸市の将来展望として、「平戸市総合戦略」等による人口減少抑制対策の効果により、合計特殊出生率が高い水準を維持、かつ社会増減が 2040 年（平成 52 年）にゼロとなるように改善されていくと仮定した独自推計を行いました。

■人口の将来展望



(人)

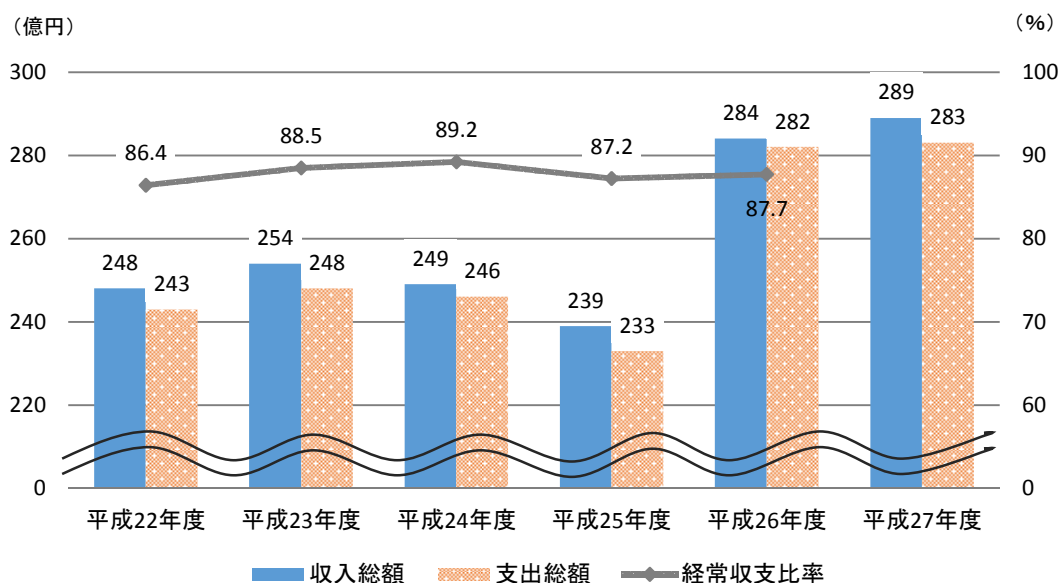
	2020年	2040年	2060年
社人研推移	28,915	18,959	11,457
平戸市独自推計	約 30,000	約 23,000	約 20,000

資料：平戸市人口ビジョン

第2節 平戸市の財政

財政状況の推移をみると平成26年度から収入総額、支出総額ともに高くなっています。平成27年度の収入総額は289億1,172万円となっており、支出総額は282億8,051万円となっています。また、収入のうち、市で調達できる「自主財源（市税、寄附金、使用料・手数料など）」の割合は、「やらんば！平戸」応援寄附金の伸びなどにより、平成18年と比べると増加しており76億4,430万円（26.4%）となっています。

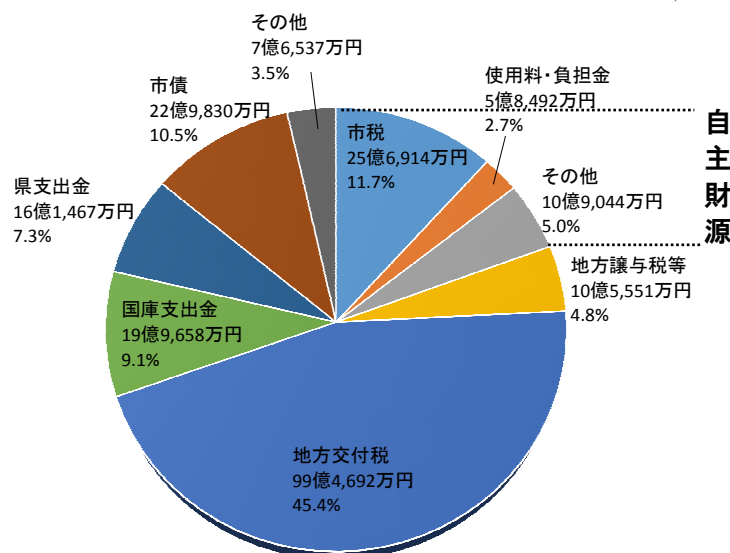
■財政状況の推移



資料：企画財政課

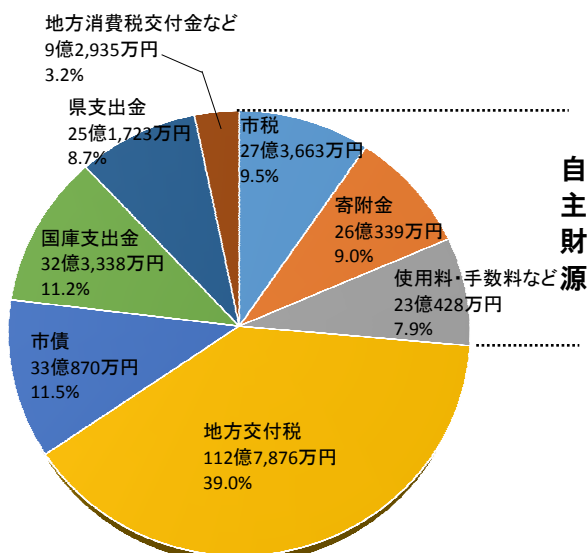
■平成18年度収入の内訳

収入合計：219億2,185万円
自主財源：42億4,450万円(19.4%)



■平成27年度収入の内訳

収入合計：289億1,172万円
自主財源：76億4,430万円(26.4%)

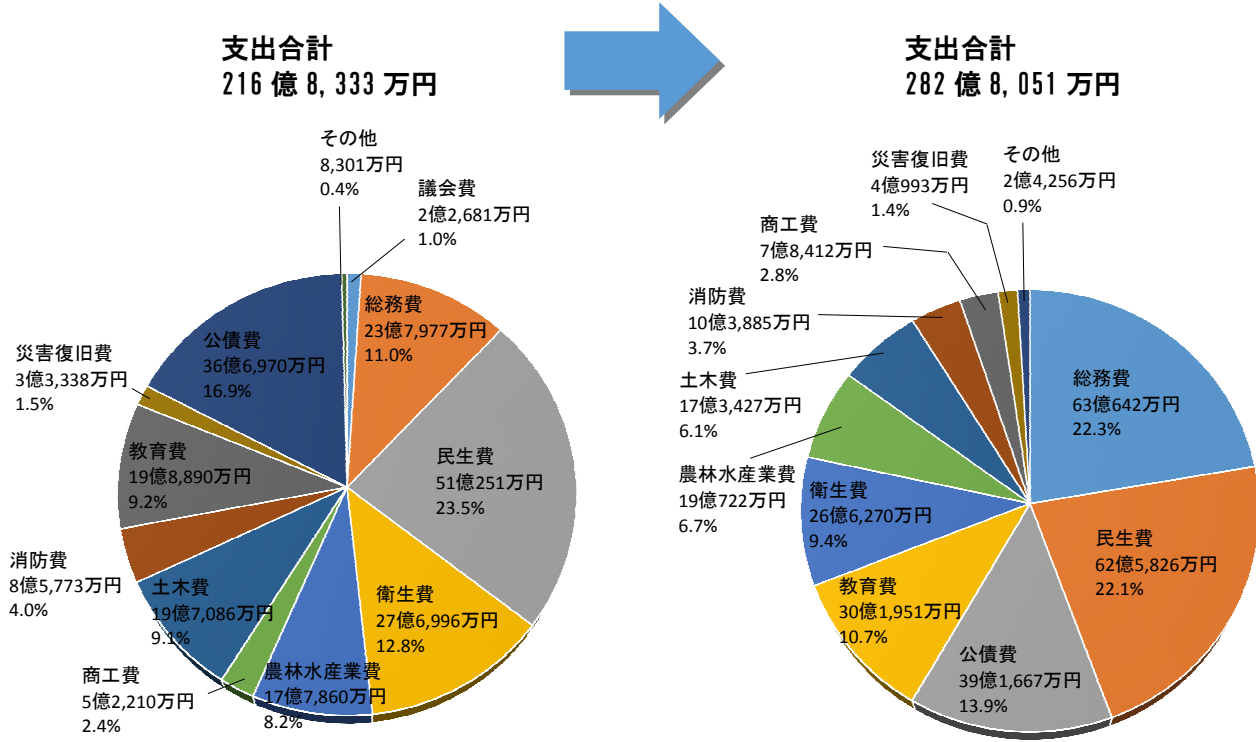


資料：企画財政課

支出の内訳をみると収入総額が増加した分、支出総額も増加しています。平成 18 年度では民生費が 51 億 251 万円（23.5%）と最も高い割合となっていますが、平成 27 年度では総務費が 63 億 642 万円（22.3%）と最も高くなっています。

■平成 18 年度支出の内訳

■平成 27 年度支出の内訳



資料：企画財政課

第3節 平戸市のすがた

(1) 位置・地勢

本市は、九州の西、長崎県の北西端に位置し、平戸島、生月島、大島、度島、高島の有人島及び九州本土北西部の沿岸部に位置する田平と周辺の多数の島々で構成されています。平戸島は、田平と平戸大橋により、生月島は、平戸島と生月大橋で結ばれています。大島、度島、高島は離島であり、交通手段は船舶のみです。

(2) 近年の歩み

平成17年10月に合併して以来、平成20年4月に策定した平戸市総合計画をもとに進めてきたまちづくりの歩みです。

- ・平成17年10月 新「平戸市」誕生
- ・平成17年12月 新船「第2フェリー大島」就航
- ・平成18年3月 「財政危機宣言」を行う
- ・平成19年3月 的山大島風力発電所プロジェクト完成
- ・平成20年3月 「景観行政団体」に認定
- ・平成20年4月 平戸市総合計画策定
- ・平成21年9月 「財政危機宣言」解除
- ・平成21年12月 阿奈田ダム完成
- ・平成22年2月 「平戸市の文化的景観」が県内初の国の重要文化的景観に選定
- ・平成22年4月 平戸大橋・生月大橋の通行料金無料化
- ・平成22年10月 大分県臼杵市と自治体連携
- ・平成23年9月 平戸オランダ商館開館記念式典
- ・平成23年9月 オランダ王国ノールトワイケルハウト市と姉妹都市締結
- ・平成24年2月 田平港シーサイドエリア活性化施設「平戸瀬戸市場」オープン
- ・平成24年8月 亀岡神社「本殿、拝殿、神楽殿、幣殿、登廊」が国登録有形文化財に
- ・平成26年10月 長崎がんばらんば国体開催（相撲・軟式野球）
- ・平成27年1月 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」国内推薦決定
- ・平成27年3月 ふるさと納税寄附額が約15億円と全国の自治体で最高額となる
- ・平成27年8月 「平戸市未来創造館」（COLAS平戸）開館

(3) 平戸市プロフィール

～私たちの平戸市はこんなまち！～

日本で初めてさつまいもの
栽培を始めたよ！

第10回全国和牛能力共進会で
内閣総理大臣賞を受賞したよ！

平戸市は
禅宗発祥の地だよ！

日本で初めて
茶畑をつくったよ！

(4) 平戸市の宝

本市の「宝」である、自然・歴史・文化などの地域の特性と多彩な地域資源を最大限に活用し、市民が誇れる魅力ある郷土づくりを目指します。

平戸大橋



本土と平戸を結ぶ平戸大橋は全長 665m、トラス吊橋構造で主塔間 465.4m、幅 10.7m、海面上 30m に吊られています。昼間は赤く美しい橋が夜になるとイルミネーションが灯り、平戸の瀬を幻想的に彩ります。また、平戸大橋の下には公園があり大橋をバックに美しい写真を撮ることができます。

平戸城



平戸城は、平戸藩主松浦氏の居城で、別名亀岡城とも呼ばれます。城の建築方法としては珍しい山鹿流によって建てられた城です。また天守閣からの眺めが素晴らしく、黒子島の原生林（天然記念物）や平戸大橋が望めます。

大バエ灯台



100m ほど切り立つ断崖の上に立つ白亜の灯台。360 度パノラマで展望でき、雄大ですばらしい景観を満喫できます。

田平天主堂



赤いレンガで造られた教会からは平戸瀬戸とそこに架かる平戸大橋が望め、写真や絵画の題材としてもよく用いられています。

大賀断崖



島の北東部に連なる断崖。断崖上部はキャンプ場と展望所があり、遠くは杓岐・対馬も望めます。

あご（トビウオ）



あご（トビウオ）は平戸を代表する魚です。近年、首都圏をはじめ全国的なアゴだしブームによる需要の高まりで取引価格が上昇しています。

平戸牛



本市の穏やかな気候と潮風が吹く、放牧に適した環境で育つ平戸牛は、独特の強い甘み、細かな霜降りが特長的です。

松浦史料博物館



建物は明治 26 年松浦氏の邸宅として建てられ、鶴が峰邸と呼ばれていました。その後、昭和 30 年に歴史博物館として開館しました。

●市内の教会群

●平戸神楽

●平戸島の文化的景観

●山頭草原

●川内峠

●平の辻農村公園

●人津久海水浴場

第2章 平戸市のデザイン（総合計画）

第1節 総合計画とは

（1）計画の目的

これまでの平戸市

平成17年（2005年）10月に平戸市、生月町、田平町、大島村の4市町村が合併し誕生した「平戸市」は、合併時に策定した「新しいまちづくり計画」を踏まえ、平成20年度から平成29年度を計画期間とする「平戸市総合計画」を策定し、『ひと（H I T O）響きあう 宝島 平戸』を掲げ、豊かな自然と歴史・郷土文化資産を最大限に活かしたまちづくりを進めてきました。また、平成26年度に「平戸市ずっと住みたいまち創出条例」を制定するとともに、平成27年度には「平戸市人口ビジョン」及び「平戸市総合戦略」を策定し、人口減少・少子高齢化に対する取り組みを図っています。

社会の変化

「平戸市総合計画」策定から10年が経過する中で、少子高齢化の急速な進行による本格的な人口減少、東日本大震災や熊本地震を契機とした市民の防災への意識の変化など私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。また、スマートフォンやインターネットの普及など、近年の情報通信技術の発達は、生活の利便性や産業の生産性の向上とともに、人と人のつながり方など、私たちの生活に大きな変化を与えています。

国の動き

国においては、平成72年（2060年）の総人口を1億人維持することを目標とした「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」が作成されました。目標人口達成のため、出生率の改善と都市圏への人口一極集中の是正が行われています。また、すべての人が、家庭・職場・地域で生きがいを持って、充実した生活を送ることができる社会を目指す「一億総活躍社会」の実現に向けた総合的な取り組みが推進され、国全体として人口減少・少子高齢化に正面から取り組む姿勢が打ち出されています。

これからの平戸市

本市では、地域特性や歴史、文化などの資源を活かしていくとともに、各種の政策課題に対して市民と行政との協力や役割分担による協働と連携の方策を探り、新しい時代にふさわしい誇りの持てるまちづくりを進めていきます。そこで、平成27年度に策定した「平戸市総合戦略」の内容を包含しつつ、今後10年間のまちづくりの指針となるよう、「第2次平戸市総合計画」を策定し、市民一人ひとりが輝けるまち「感動都市平戸」を目指します。

(2) 計画の特徴

本計画は、次のような特徴を持っています。

①まちづくりの最も上位に位置づけられる計画

本計画は、まちづくりを行う上での最上位に位置づけられる計画であり、まちづくりの目標とその実現に向けた方策を示しています。

②まちづくり全般にわたる総合的な計画

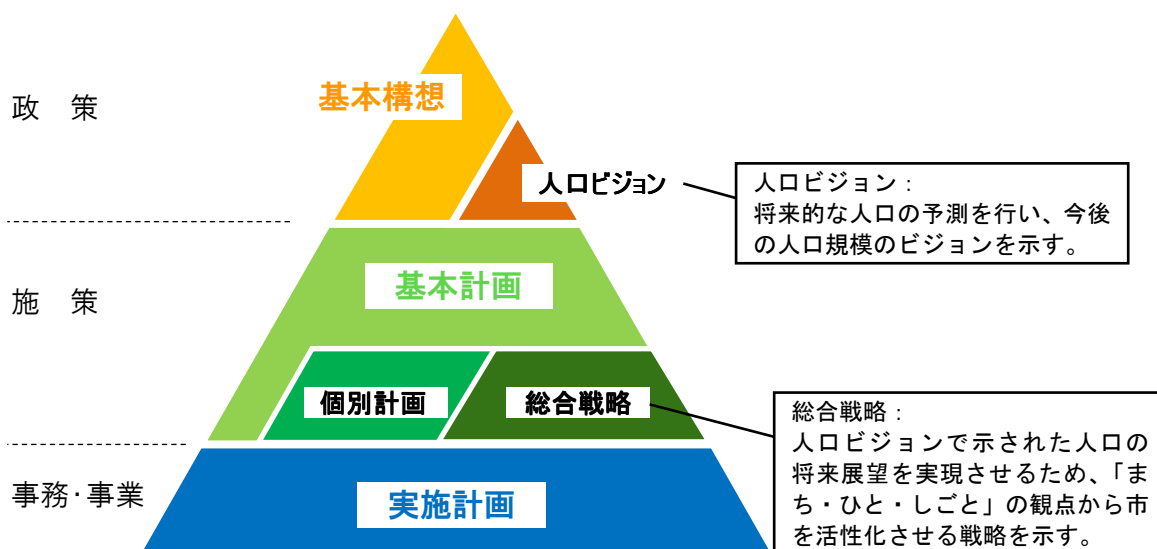
本計画は、まちづくり全般にわたる内容となっており、中長期的な展望に立ち、計画的・効率的な行政経営を行うための指針を示しています。

③将来目標の実現に向けて、市民と行政が共有する計画

本計画は、行政経営のみならず、市民と行政が目標を共有し、ともにまちづくりを進めるための考え方や方針を示しています。

第2節 総合計画の構成

この総合計画は、基本構想と基本計画及び実施計画で構成するものとします。



(1) 基本構想

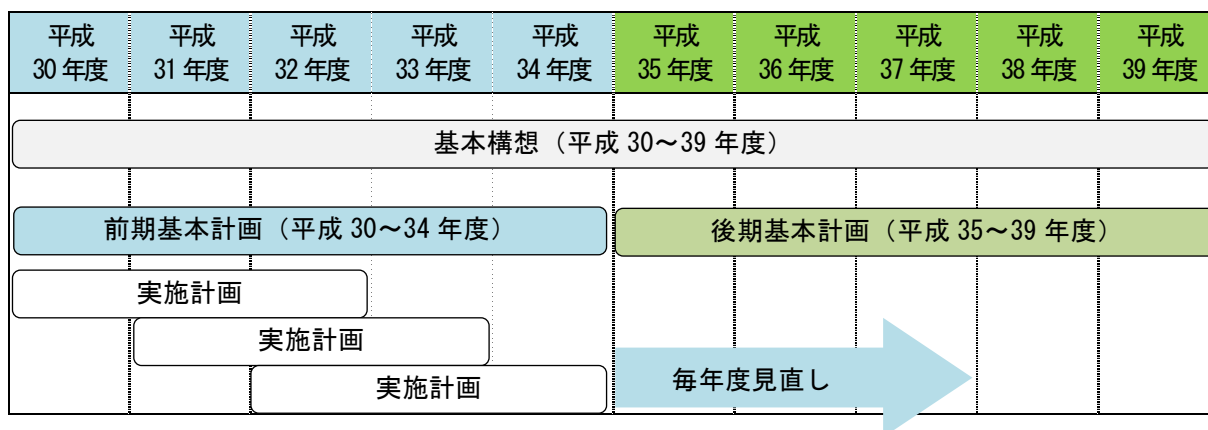
基本構想は、本市の最も基本的な指針として、まちづくりを進めていくための基本理念や目標を示すものです。基本構想の期間は、平成 30 年度から平成 39 年度までの 10 年間です。

(2) 基本計画

基本計画は、基本構想を実現するための基本的施策の方向を体系的に示すものです。前期基本計画の期間は、平成 30 年度から平成 34 年度までの 5 年間とします。

(3) 実施計画

実施計画は、基本計画に示した基本的な施策を行政が具体的に実施するための財政計画と連動した計画です。実施計画の期間は 3 年間とし、毎年見直すものとします。



基本構想、基本計画については、定期的な事業成果・効果の点検結果を踏まえた上で、その後の計画推進に問題がある場合や本市に大きな社会情勢の変化等があった場合は、計画期間内であっても必要に応じて見直すものとします。

第3章 みんなでやらんばプロジェクト

第1節 まちづくりの目標

第2次平戸市総合計画では、10年後の市の未来像を実現していくために、共通目標と7つの基本目標を中心にあらゆる取り組みを行っていきます。

共通目標

「きずな」を生み出すプロジェクト

【協働、地域コミュニティ、シビックプライド】

基本目標1

しごとげんきプロジェクト【産業、雇用】

～特色を活かした新たな産業による雇用の促進、産業の振興

基本目標2

ひとをそだてるプロジェクト【子育て、人権、教育、文化】

～子どもを産み、育てやすい環境整備、教育の充実、文化振興

基本目標3

まちをつくるプロジェクト【移住・定住、シティプロモーション】

～まちの活気を取り戻すための若者定住・移住促進対策

基本目標4

ひかりかがやくプロジェクト【観光、交流】

～観光平戸の再生と交流人口の拡大

基本目標5

くらしをまもるプロジェクト【自然環境、生活基盤、防災】

～安全で自然と調和した生活環境の充実

基本目標6

えがおをたやさないプロジェクト【保健、医療、福祉】

～生きがいと安心の福祉の充実

基本目標7

チカラをつけるプロジェクト【行財政運営】

～効果的・戦略的な行政経営の推進

※シビックプライド…個々人がまちに抱く誇りや愛着のこと。

第2節 地域目標

※旧市町村単位で、地域の独自性・優位性を生かす目標設定を想定